

### 376 原発性骨良性腫瘍の骨シンチグラフィ

小野 慈, 大竹英二, 中森昭敏, 鈴木 隆  
松井謙吾 (横浜市大 放) 酒井直隆  
渡辺正美, 腰野富久 (横浜市大 整形)

良性の骨腫瘍は種類が多く、又発症頻度の低い腫瘍もあることから、骨シンチグラム所見が充分知られているとはいえない。昭和50年1月から58年12月までの9年間に経験した症例を調査した。

多発性軟骨腫3, 良性軟骨芽細胞腫3, 骨腫2, 類骨腫2, 良性骨芽細胞腫1, 非骨化性線維腫2, 血管腫3, 巨細胞腫12, 骨嚢腫11, 動脈瘤性骨嚢腫3, 線維性骨異形成11, 線維性皮質欠損9, その他の骨腫瘍7, 計69例89回のスキュンを調査対象とした。骨腫瘍の診断は主として生検又は手術による病理組織診により行ったが、骨嚢腫, 線維性皮質欠損の一部では生検は行わず、理学所見, X線所見などを総合して判断した。骨シンチグラムはカメラ又はシンチスキヤナの全身像を参考にカメラによる局所像を主に検討対象とした。

骨病巣におけるシンチグラム上の集積程度, 集積パターンをまとめるとともに polyostotic lesion を呈する骨腫瘍について局在性, 頻度を検討した。

### 377 Tc-99m-MDPを用いたStaticおよびDynamic Scintigraphyによる骨・軟部疾患の検討

仏坂芳孝, 森田誠一郎, 菊池 茂, 矢野 潔,  
大竹 久 (久大 放) 野口耕治, 福留良文,  
岩沢敏光, (同 中放) 梅崎典良 (同 RI施設)  
生田久年, 井上明生 (同 整)

Tc-99m-MDPを用いたstaticおよびdynamic scintigraphyの骨・軟部疾患に対する有用性について検討した。Tc-99m-MDP 20mCiを急速静注し、直後より3秒毎に100フレームのデータを収集し、更に10分後, 20分後, 3時間後のイメージをそれぞれ作製した。病巣および健常部位にROIを設定し, time activity curveを得て両者を比較した。対象疾患は骨盤部および下肢に局限した片側性の病変で, 健側との対比が可能なものに限った。内訳は原発性悪性骨腫瘍4例, 転移性骨腫瘍5例, 原発性良性骨腫瘍6例, 骨の腫瘍類似疾患5例, 骨炎性疾患6例, 軟部悪性腫瘍5例, 軟部良性腫瘍1例, 軟部炎症性疾患3例の計35例である。dynamic scintigraphyでは骨・軟部疾患の病巣部位の血流状態および異常集積の出現時期が観察され, time activity curveでは病巣部位のRI取込み過程を知ることができ, また両者を総合することにより疾患の質的診断を高めることが可能と思われた。

### 378 多発性骨髄腫の骨病変描出における骨スキュンと骨X線所見の比較検討

斎藤博哉 (北大 放), 藤森研司 (同 核), 伊藤和夫, 辻 比呂志, 竹井秀敏 (同 放), 中駄邦博,  
古館正徒 (同 核), 入江五朗 (同 放),  
池田 光 (市立札幌 放)

多発性骨髄腫において骨病変の拡がりを知ることは予後に関わるステージ分類上重要であり、その目的のためにしばしば骨スキュンが施行される。しかしながら多発性骨髄腫における骨スキュン所見は骨X線所見に比へ乏しいと報告されている。昭和53年より北大放射線科, 市立札幌病院放射線科において多発性骨髄腫と診断された25例の骨スキュン所見と骨X線所見とを比較検討した。

21例の骨スキュンに異常集積像を認め、それに対応する部位の骨X線所見は、多様で必ずしも病的骨折ではなかった。総じて骨X線の方が骨スキュンよりも病変検出に優れていたが、部位別に見ると頭蓋、骨盤、上肢、下肢を除いた、脊椎、肋骨、胸骨に関しては骨スキュンの陽性率が高かった。

多発性骨髄腫において骨病変の拡がりを知るうえで、骨X線写真上所見の取りにくい部位の検索に骨スキュンは有用であると考えられる。

### 379 骨シンチによる乳癌骨転移の治療効果判定

松本誠一, 金田浩一, 峯博子 (癌研病院放射線科)  
川口智義 (癌研病院整形外科)  
深見敦夫 (同 外科)  
小川一誠 (同 化学療法科)

乳癌骨転移に対しては、局所放射線療法の外に、ホルモン療法や化学療法などの全身療法が施行されているが、その治療効果判定に関しては、様々な問題がある。我々は、83年度の本学会において、治療効果判定における骨シンチの役割について発表した。今回さらに新しい症例を加えたので、前回報告例のその後の経過と合わせ、報告する。

対象は、1978年1月から1983年12月までの6年間に癌研病院にて乳癌に施行された骨シンチ1710症例である。この中で全身療法にてシンチ上明らかに改善をみたのは40症例であった。これら40症例をもとに、治療開始からシンチ上改善をみるまでの期間、改善例が再び悪化を示す時期の評価などについて、骨XPと比較検討したい。